



実施者向け マニュアル

本冊子はおつかいゲームを行う際に気を付けるポイントや、説明書よりも更に分かりやすく解説したQ&Aをまとめたマニュアルです。ぜひ参考にしてみてくださいね。

- なるべく**広い場所**で行う

→カードが広げやすくサイコロもころがしやすい🎲

- お子さんの意見を否定せず、**共感する**

- 間違っても OK！ やんわりフォロー
→例「そうなんだね、でも〇〇は危ないから
△△するのはどうかな？」



- 「〇〇したら？」など**アドバイスをせず、聞かれたら提案する**

- **楽しくする**

- **自由度高め**

- できたら具体的に**褒める**
→例「〇〇できてすごいね！」



• シャイな子は**指差し**などを用いたコミュニケーションをとるなど、お子さんの性格に合わせる

• 複数人で行う場合、お子さん自身の意見や他者の意見を**共有する**ことを意識する

- “勝ち負け”ではなく“**目標達成**”にこだわる！

+ α ゲームに慣れてきたら「今度は実際におつかいに行ってみよっか！」と提案する

Q&A

Q、「数がわからないお子さんはどうしたらいいの？」

A、「コインを使って、一緒に数えてあげましょう。」



Q、「子どもの対象年齢は？」

A、「3～10 歳を対象年齢としていますが、お子さまの発達段階に応じてお使いください」

Q、「子どもは何人ですか？」

A、「1～2 人がおすすめです」

Q、「なんでおこづかいは 800 円なの？」

A、「おつかいメモに記載してある品物の合計の金額が、800 円以内に収まっているためです。800 円以上であれば、自由に設定することもできます。」

Q、「ルールの理解が難しい子どもとする場合、どういう対応をしたら良い？」

A、「サイコロを振ってもらう、お金やコインと一緒に数えて受け渡しをしてもらう、ヒントを出しながら品物を選んでもらうなど、お子さまのできることはお子さまが行い、難しいところはサポートがあると一緒に楽しめます。」

Q、「イベントカードは書いてるものをそのまま読めばいいの？」

A、「そのまま読んで、選択肢を選んでもらうことも良いと思います。お子さまによっては、質問を読んだ後に少し間を空けてから選択肢を出すと、お子さま自身の回答を考える時間ができるので、スキルアップにも繋がります。」

Q、「イベントカードで合ってる回答だったら？」

A、「くそうだね！>くその考えいいね！>など、共感して褒めてあげましょう。その際にグッドポーズや手で丸を作るなどの仕草を入れてあげると、お子さまに伝わりやすくなります。」

Q、「イベントカードで間違ってる回答だったら？」

A、「イベントカードでは、一部安全が問われる質問があります。

例えば踏切に関する質問では、電車が来ないかなどの安全を確認してから渡らないと危険ですよ。もしお子さまが走って渡ると回答した場合、く早く渡りたいよね、でも電車が来てぶつかっちゃうかもしれないから、来ないか見てみようね>と共感した後にこうすると良いよとアドバイスをしてあげるとよいでしょう。」

Q、「ゲームの途中で立ち歩く子どもは、どう対応したらいい？」

A、「何をしたら良いのかわからない、他に興味のあるものがある、飽きたなど、様々な原因が挙げられます。

サイコロやカードをお子さまの目の前で提示したり、お子さまの好きなコマを使ったり、ゲームのルールをお子さまに合わせて変更すると、参加しやすくなったりします。ルール変更での例として、

①お子さまの好きなものを買に行く、②お店を集めに行く、③ボードゲーム上で鬼ごっこ、④品物カードでジェスチャーゲームはいかがでしょうか。」



Q、「子どもがコマで遊んでる時はどうしたらいい？」

A、「お子さまが1人であれば、ゲームに誘いつつ一緒にコマで遊んだり、様子を見ると良いでしょう。無理にゲームに参加させる必要はございません。」

Q、「品物を選んでもらう時はどう声かけをすればいい？」

A、「店員さんの真似をすると良いでしょう。〈いらっしゃい、どれを買いますか？
〇〇円です。ありがとうございます。〉とお客さんに接するような対応をとると
よいですね。」

Q、「ルール説明が難しい…」

A、「説明の際に、ルール説明(画像)をお使いください。言葉だけではなく、視覚的に提示すること
で、より理解が深まります。」



Q、「子どもが材料をうまく切ったり、貼り合わせたりできないのですが・・・」

A、このゲームは3歳以上を対象年齢としていますので、お子さまだけで材料
を切ったり貼ったりすることが難しい場合は、大人の方もいっしょに作る作業
を楽しんでいただければ幸いです。この際、お子さまへの声かけはできるだけポ
ジティブに。切ったり折ったりする際は、多少の線からはみだしはOK！です
ので、楽しく作業してみてください。

お子さまの年齢や発達段階にあわせて、道具も工夫してみましょ。手で塗るタ
イプ、スティックタイプ、のりテープなどお子さまに合わせて使いやすいものが
よいですね。

また、お子さまだけで作業が難しいときには、前もって、『できないときは、て
つだって、と言ってくれたら手伝うよ』と伝えおき、手伝ってほしいときに上手
に伝えられるような機会をあえて作ることも、ソーシャルスキルの向上につな
がります。

